

第5学年3組図画工作科指導案

千葉市立誉田小学校

授業者 5年3組 斉木菜摘

児童数 男子19名 女子15名 計34名

展開場所 図工室

授業日 平成24年11月20日(火)

1. 題材名 「6人の画家の 心にふれて」(鑑賞)

2. 題材設定の理由

ピカソは表現方法を模索しながら生き続けた人であり、その流れ中で、キュビズムという表現方法を確立した。キュビズムとは、20世紀初めにピカソとブラックによってフランスに興った芸術運動であり、描く対象をバラバラに分解し、平面上で構成し直すという様式である。これにより、絵画は現実から独立し、自由を獲得したのである。本題材で中心に扱うピカソ作品「泣く女」は、1937年に代表作「ゲルニカ」を完成させた6ヶ月後に描いた作品であり、戦争の被害者、そして目撃者を象徴している。割れた皿のような瞳、ハンカチを噛みしめる口元。知的で激情的な愛人ドラマールのイメージを借り、強烈な色彩で描かれた女は、ピカソの戦争への激しい怒りを代弁している。この「泣く女」は「ゲルニカ」から続く内戦への“反戦声明”の完結作でもあり、この作品を機に、この主題を描くことはなくなった。女の悲しみを演出するため。キュビズ的な直線で描かれているのが特徴である。6作品の画家というのは、実はすべてピカソである。ピカソの青年期の作品や青の時代、ばら色の時代、そしてキュビズムという表現方法を確立してからの作品であり、ピカソの歴史を追ったものである。6枚の作品は次の通りである。「盲人の食事」(1903年)「曲芸師の一家」(1905年)「ギターを持つ男」(1911年)「三人の仮面をかぶった音楽師」(1921年)「アルルカンに扮したポール」(1924年)「アンティープの夜釣り」(1939年)そして「泣く女」(1937年)である。

本題材は、学習指導要領 目標(3)「親しみのある作品などから、よさや美しさを感じ取るとともに、それらを大切にするようにする。内容B 鑑賞(1)ア 自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、暮らしの中の作品などを鑑賞して、よさや美しさを感じ取ること。イ 感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえること。」にあたる。

ここでは、児童それぞれの感じ方や見方でじっくりと作品と対話するように鑑賞し、作者の思いを想像することで作品のよさや美しさを感じ取ることがをねらいとしている。「これってなんだろう?」と疑問を投げかけるようにしながら作品と対話をはじめ、「きっと、こんな気持ちだろう。」と受け止めたり、「自分だったらこうする。」と自分の思いを表現したりする活動を通して、作者の思いにせまっていく。作品のよさや美しさを感じ取ることができた児童は、次の自分の表現活動へ活かしていくことができると考える。自分なりの感じ方や見方でよいということは、自分に自信をもつことや友だちの感じ方や見方も認めることにつながるものである。そして、身近にある作品や自然の美しさに目をとめ、進んで鑑賞しようとする態度が育っていくことを期待したい。

本題材は、初めにピカソの「泣く女」のパズルを行う。ピースは均等に25に分けられている。(※資料参照)。パズルを完成させ、現れた「泣く女」をみた子どもたちは、一様に奇異な印象を持つこ

とであろう。しかし、具象画からは得られない驚きとともに、何を描いた絵なのか強烈な興味関心を持つに違いない。次に、6枚の絵を観ながら、そのよさや美しさなどについて話し合う。6枚の作品を見せることで、好悪といったレベルから「何かしらひきつけられる」といった児童たちなりの関心によって「気になる絵」に違いが出てくることであろう。しかし、実はみなピカソの作品であることを知らされた時、児童の驚嘆することは間違いないであろう。ピカソの歴史の流れの中で「泣く女」を鑑賞することで、ピカソの作品の変化を捉えさせた上で、表現方法に触れることができ、遥かに表現方法の面白さや幅広さが伝わるのではないかと考えこのような授業構成を考えた。

本学級の児童は図工が好きで、多くの児童が熱心に製作活動に取り組む。学級掲示にも力を入れ、友達とアイデアを出し合いながら納得のいくまで作品を追求していた。しかし、「校内 春の絵をかく会」では、絵をかくことに乗り気ではない児童の姿が見られた。校内の風景を題材としたが、「絵は上手にかくことができないからあまり好きではない」「見たようにかくのが苦手」「かくのは好きだけれど、上手ではないから気持ちが乗らない」という声が多かった。また、製作が進むにつれ、自分だけではどのようにかき上げていけばよいのか考えられずに諦めてしまう姿や、どのような作品に仕上げるかの構想を練らずに進めている姿も見られた。鑑賞活動における学習カードの記述では、作品の形や色、材料や表し方等について、何を視点に鑑賞していたかを分析した。その結果、児童の視点は色に偏っており、作品の内容や作者の意図に迫るような記述は少なかった。これらの実態から、本学級の児童は作品鑑賞の視点が少なく、作品の内容や作者の意図をとらえた見方や感じ方が十分に深まっていないと捉えた。本題材でも、個人鑑賞では以前と同様の鑑賞視点で終わってしまうと予想される。そのため、少人数グループでの鑑賞を通して、児童が自分の考えをまとめ、自分なりの見方や感じ方の深まりを振り返り、話し合いで友達の考えと自分の考えを比べたり、理解したりする場を設定する。これらの取り組みにおいて、児童は作品を形や色、材料や表し方等から類似点や相違点などに気付き、気付いたことをもとに自分の考えをまとめる。さらに自分の考えや友達の考えを比べ、理解したり違いが分かたりする。このような活動を通して、児童の作品鑑賞の視点を広げ、作品の内容や作者の意図に迫れるような、自分なりの見方や感じ方を深めさせたい。

そこで、本題材ではピカソを取り上げた。児童たちの多くも、「奇妙な絵をかく」ピカソという名前は知っていることだろう。しかし、彼の表現の変遷を知ることは少ない。今回、ピカソのいくつかの作品を通して、絵を観る楽しさを伝えたいと考えてみた。また、絵を描くことを通じて自分の「生」を追い続けたピカソその人のことも感じ取ってほしいと願っている。

3. 題材の目標

- ピカソの作品鑑賞し、自分の言葉で感じたことを発表できる。 (関心・意欲・態度)
- ピカソの作品を鑑賞し、自分なりに絵と対話することができる。 (鑑賞)

4. 指導計画 (2時間扱い)

時数	学習内容	具体的な手立て
1 本時	○ピカソの絵に触れる。 ・「泣く女」のパズルを班ごとに行う。	・鑑賞のグループを少人数にして、どの児童も発言しやすいようにする。

	○ピカソの作品を鑑賞する。 ・ 6 作品から 1 作品を選び、そのよさや美しさなどに親しむ。	・ 全体でも発表の時間を設け、ひとつの作品にも様々な感じ方があることに気付かせる。
2	○他の画家の作品を鑑賞する。 ・ 8 作品から、各自気に入った作品を選び、同じ作品を選んだ児童同士で鑑賞会を開く。	・ 作品から感じたものや不思議に思った点、描かれている人の気持ちや場面設定など、さまざまな視点を与える。 ・ 同じ作品を選択した児童同士で話し合いの場を共有することによって、感じ方の違いによる面白さをより気付かせる。

5. 本時の指導

(1) 目標

○形や色、構成によって、動きや感覚、感情が生まれることを理解させ、多様な見方ができる鑑賞を楽しむことを身に付ける。(鑑賞)

(2) 仮説

本学級の児童は、作品をつくることは好きであるが、自分のイメージを膨らませて製作することに抵抗を感じている児童も多いた。しかし、製作後に互いの作品に対して感想を述べ合うことで、製作者が気付かなかったような良い点や表現方法を見つけたり、改善点を伝え合ったりとそれぞれが自分の課題を見つけることができた。それに伴って、製作意欲も向上し「次回は葉の色をもっと追求する」「〇〇さんからアドバイスをもらったように、水の量を増やしてみよう」など、毎時間のめあてが明確になり、意欲向上へ繋がった。

そこで、以下のような手立てをとる。

パズルやワークシートの活用を行い、絵との関わりを設定するならば、自分なりの見方や友達との交流を通して、絵に親しむことができるであろう。

本時では、子どもたちが絵の表現方法に親しむ心情を培うことをねらいとしている。その手だてとして、様々な表現方法を模索し、自らの思いを伝えようとし続けたピカソの絵を取り上げてみた。

まず、導入では「泣く女」のパズルを行い、キュビズムの面白さに触れさせたい。そしてこの絵をみんなで観ていきながら、見方の自由さに触れたい。次に数点の絵から 1 枚を選びその絵を自分なりの見方に沿って鑑賞する場を設定した。その際、観る手がかりとして、ワークシートを活用し、絵との対話の促進を図ろうと考える。

児童たちは、個人での鑑賞や学級全体での鑑賞には取り組んできた。しかし、個人での鑑賞は、多くの作品に触れ自分の思いを膨らませられる、という利点はあるが、他の人の感じ方に触れることはできない。また、全体での鑑賞となると、友だちの考えを聞くことはできるが意見を伝え合うことは難しい。そこで、同じ絵を選んだ児童で少人数のグループをつくり、限られた時間の中で、できるだけみんなで話し合いの場を持ちたいと考える。

以上のようにすれば、感じ方を広げ、感性豊かに鑑賞活動に取り組むであろうと考えた。

(3) 展開 (1/3)

学習内容と活動	○・教師の支援 ◆評価
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p>	<p>○ 6枚の作品（6人の画家）を観ながら、その良さや美しさなどに親しむことを伝える。</p> <p>・（6枚の絵は、全てピカソの作品だが、その表現方法の違いを明確にするために6人とした。…4の活動で種明かしをしながら、ピカソその人のことにも触れる。）</p>
<p>作品と対話しながら、画家の思いを想像しよう</p>	
<p>2 「泣く女」のパズルをし、作品を見て感じたことを出し合い、感じ方の違いや共通点について話し合う。</p> <div data-bbox="284 831 555 1167" style="text-align: center;"> </div> <p>（予想される児童の反応）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目がタイヤみたいな形をしている ・顔の色が肌色だけではなく、カラフルだ。 ・涙がガラスみたいなことになっている。 	<p>○ 「泣く女」の均等分割したパズルを班ごとに行うことで、キュビズムの作品を解体し、組み合わせを自由に楽しませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間を区切り、作品をみんなで観る時間をつくる。 （女の人がなぜ泣いているのか、どんな思いなのか、何を訴えたいのか、など想像した女の人の気持ちを明確にしていく。） ・絵を見る視点を全体の中で味わわせ、次の個人鑑賞の見通しづくりとしたい。 <p>◆女の気持ちや泣いている背景にあるエピソードなどを想像しながら、自分なりに絵と対話している。 （関心・意欲・態度）</p> <p>〈視点〉</p> <div data-bbox="783 1301 1321 1615" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・顔に関わる意見 （例：目が2つ同じではない。目の中にマークみたいなものがある） ・色に関わる意見 （例：手が緑から白に変わっている） ・主題に関わる意見 （例：顔を半分に分けてみると、2人いるみたい） </div>
<p>3 6枚の絵から1枚の絵を選択し、鑑賞する。</p> <p>同じ絵を選んだ児童でグループを組み、互いの感じ方を発表し合う。</p> <div data-bbox="177 1865 352 2024" style="text-align: center;"> </div> <p>（児童の反応）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画面全体が青色で、不思議な感じがしたので、選びました。 	<p>○ 6枚の絵から1枚を選択し、落ち着いて観る時間を設定し、絵との対話が図れるようにワークシートを活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品に対して、感じたことや疑問点を発表することが苦手な児童には、鑑賞質問カードを用意し、参加できるようにする。 ・自分の感じ方と友達の感じ方にどんな違いがあるの



・ 5人が話をしている、これからどこかに出かける前の、楽しい雰囲気を感じたので、気に入りました。



・ 人間がギザギザとした線がかかっていたり、四角形や三角形で組み合わさっていたりして、おもしろいかき方だと思いました。



・ 仮面をかぶった3人の音楽師がどのような音楽を演奏しているのか興味があります。



・ 色も明るく、小さな男の子の表情がかわいらしかったので、気に入りました。



・ 画面全体に多くの色が入っていたり、おもしろい形の生き物がたくさんいたりして、見ていてわくわくしてきます。

4 小グループで鑑賞したことを全体で話し合う。

(予想される児童の反応)

- ・ 自分では、「青」という色だけのイメージしかなかったけれど、友達の考えを聞いて、かかっている男の人の気持ちも考えてみました。(盲人の食事)
- ・ 「楽しそう」というイメージは、みんな共通でしたが、「静かな曲」や「アップテンポな曲」など、想像する曲調は違っていました。(三人の仮面をかぶった音楽師)

5 作品を鑑賞することで感じたことを発表し、本時の学習を振り返る。(ワークシートに書く)

か、また共通点はどんな点かも考えて話し合うように伝える。

- ・ 話し合いがスムーズに進まないグループには、鑑賞の視点を押さえた質問から会話が広がっていくような声かけをする。

◆絵に親しみながら、自分なりに絵と対話しようとする。
(鑑賞)

○小グループ鑑賞で出た気づきを話題にし、感じ方の共通点や違いをとらえさせる。

- ・ 観てきた絵画、ピカソという一人の画家の作品であり、絵を通して自分を表現し、思いを伝えようとしてきた人だったことを伝え、画家の思いと表現方法は大きく関係していたことに気付かせる。

○小グループ鑑賞の感想や「泣く女」の作品鑑賞で感じたことを数人の児童に聞くことで、人によって感じ方に違いがあることに気付かせる。

